

# 勝沼ぶどうとワインの里地区

(山梨県甲州市)

- 計画期間 平成17年度～21年度
- 面積 451 ha
- 交付対象事業費 819百万円
- 市人口 35,922人(地区内人口 5,100人)

**ポイント** 近代産業遺産を活かした「ワイン文化の見えるまちづくり」による交流産業の活性化

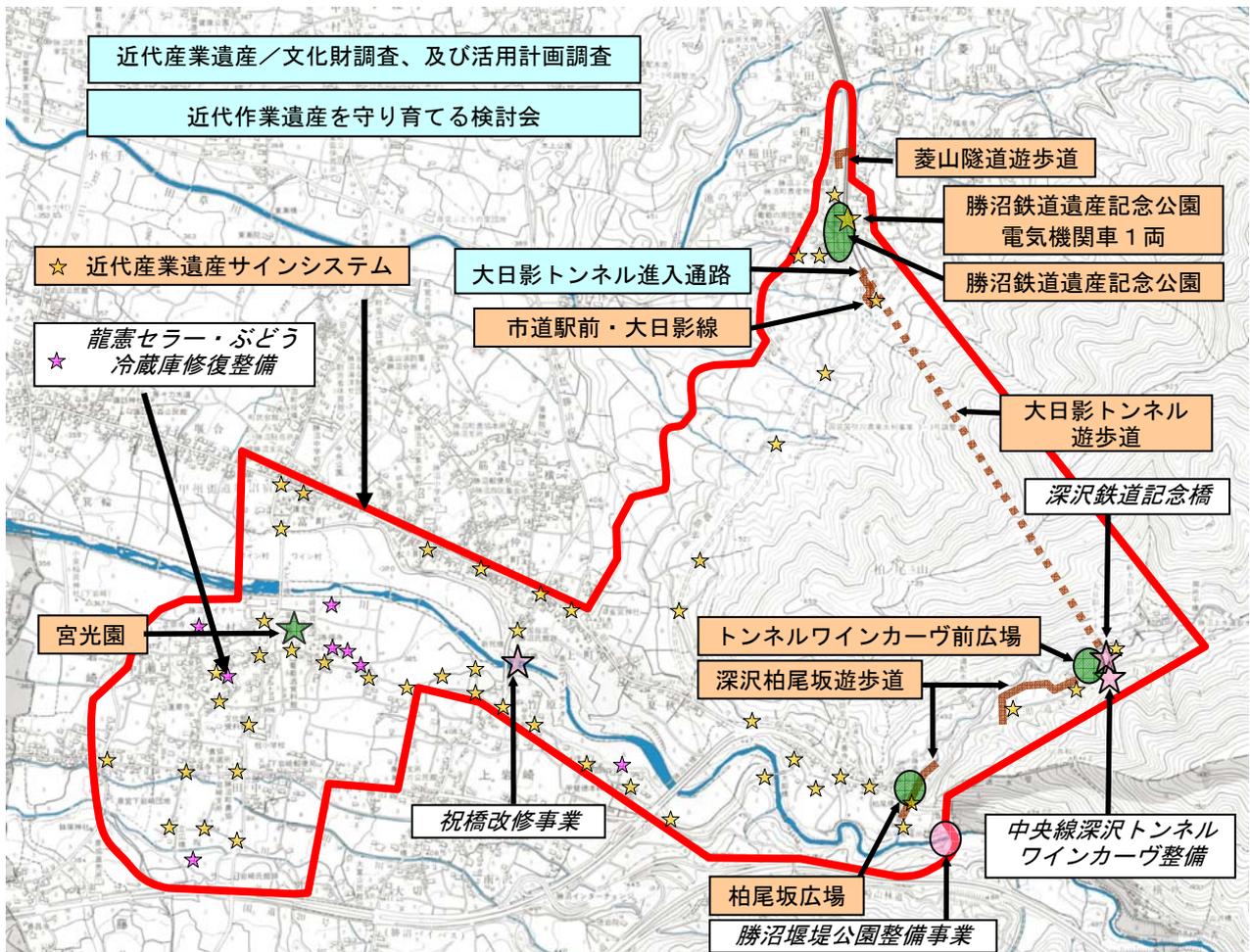
**地区概要** 明治期の鉄道遺産やワイン醸造場の遺構など近代産業遺産の保存修復を行うとともに、点在する遺産群をフットパスルートで結ぶことにより交流人口の増加を促進し、地域の活性化を図る。

**目標** 近代産業遺産の活用による「ぶどうとワインのまち」の活性化を図る。

**指標** 近代産業遺産の修復を行い、歴史文化的な価値を内外に広めるとともに、交流施設としての活用を図り、遺産群や史跡、ワイナリーを結ぶ散策ルートの整備による交流人口の増加を目標とした。

地区内ワイナリー来訪者数	55千人(H15) → 66千人(H22)
地区内宿泊者数	64千人(H15) → 76千人(H22)
駅乗降客数	152千人(H15) → 182千人(H22)

**事業内容** 基幹事業(789百万円) → 道路(幅員4m、延長116m)、公園(面積0.7ha)、広場(2箇所、1,561㎡)、サイン整備(80基)、大日影トンネル遊歩道(幅員3.6m、延長1,380m)、菱山隧道遊歩道(幅員3m、延長36m) 深沢柏尾坂遊歩道(幅員2.6m、延長466m)、公園モニュメント(電気機関車1両)  
 提案事業(30百万円) → 大日影トンネル進入通路(幅員4m、延長85m)、近代産業遺産/文化財調査、及び活用計画調査、近代産業遺産を守り育てる検討会



## 地区の現況と課題

甲府盆地の東の玄関口に位置し、江戸期は甲州街道の宿場町として栄えた。日本のぶどうとワインの発祥地であり、ぶどう1,300年、ワイン130年の歴史文化を有する。観光ぶどう園やワイナリーが軒を連ね、明治期のワイン醸造場やセラー、レンガトンネルなど近代産業遺産が数多く残る。農産物やワイン市場のグローバル化が進む中、産地を取り巻く状況は厳しさを増し、観光客は減少傾向にある。従来型の観光形態から脱却を図り、新時代への的確な対応が課題となっている。

## 提案事業の特徴

### 近代産業遺産/文化財調査・活用計画調査

貴重な地域資源である近代産業遺産の調査を行うとともに、地域の交流拠点として活用していくため、文化財調査、活用計画の調査及び策定を行い、整備に生かしていく。

### 近代産業遺産を守り育てる検討会

近代産業遺産を活用したまちづくりは、地区内の住民との合意形成を図りながら協働態勢による推進が求められる。ワークショップやシンポジウム、お試イベント等を実施するなか、住民が主体となり「勝沼フットパス」の推進活動を進めている。

### 大日影トンネル進入通路

近代産業遺産である大日影トンネル遊歩道への進入通路として、市道の整備と併せて接続通路を整備する。

## 計画策定プロセス

### 景観まちづくりプロジェクトチーム

市民を委員に委嘱し、まちづくり方策について景観保全と近代産業遺産の活用を軸に検討を重ねた。実地踏査や議論を踏まえる中で計画を策定、近代産業遺産等、貴重な資源を活かしていくため、フットパスの導入による活性化策が導き出された。

### 甲州勝沼フットパスの会

景観まちづくりプロジェクトチームのメンバーを中心に、フットパス活動の推進組織である「フットパスの会」が立ち上がった。お試イベントの開催、朝市会や農家との連携による縁側カフェの開設など、住民と行政の協働による取り組みが展開されている。

## 田辺篤市長のコメント

勝沼ぶどうとワインの里地区は、日本産ワインの歴史と文化を伝えるエリアです。ぶどうとワイン産業の発展に大きな役割を果たしたワイン醸造場や中央線のレンガトンネルなど、点在する近代産業遺産の修復を行い、遺産群やワイナリーを結ぶフットパスルートを活用して地域の活性化を目指しています。推進にあたっては市民の皆さんと協働で取り組んでいます。これからの観光は、地域の歴史や文化、自然に触れながら、ゆっくり歩いてめぐるスタイルが主流になっていくものと思われま。本市では「ある〜く甲州」をキャッチフレーズにした活動を展開しています。今後も全国から多くの人々に訪れていただけるよう、受け入れ態勢の充実に努めていきたいと考えています。



近代産業遺産群を活かし、点から線、そして面へと結ぶフットパスルート（明治のレンガ隧道を再生した大日影トンネル遊歩道）



ガイドツアーでは、市民が案内役を務める



明治のワイン醸造場を交流拠点として整備



検討会でコースの設定を考える市民の皆さん

## ==== 勝沼フットパスの会会長のコメント ====

近代産業遺産の活用策を検討するなかで、英国のフットパスを参考に勝沼版フットパスを導入していくことになりました。勉強会や先進地研修だけでは飽き足らず「やってみなくちゃ、わからない」ということで、お試しイベントを実施したところ好評で、その後も大小のイベントを行っています。昨年は農家の方と連携し、大日影トンネルと縁側カフェを取り入れたフットパスツアーを開催しました。市内外から大勢の方が参加し大変喜んでいただきました。勝沼フットパスの魅力は、ぶどうとワインが醸し出す歴史と文化の物語です。フットパスは、感性に訴える不思議な魅力があります。これからも活動を通じて地域の活性化に貢献していきたいと思えます。

(小澤正光氏)

## ==== 高安一氏（勝沼朝市会会長）のコメント ====

毎月第一日曜日に開催している勝沼朝市では、この地域をもっと深く知っていただきたいという趣旨のもと、勝沼フットパスの会の協力を得て、朝市会場を起点にしたフットパスツアーを実施しています。会場はワインの歴史エリアに位置しており、2時間ほどのガイドツアーで、明治の醸造場やレンガ積みセラーなどをめぐり、地場ワイナリーで試飲を楽しむという内容です。ワイン好きな人はもちろん、そうでない人も歴史やうんちくがわかると好評です。参加者は少数ですが、少ないぶん、案内人や醸造家などとの交流の密度も濃く、ぶどうとワインのストーリーが深く理解できます。まちづくりには歴史資源の掘り起こしと活用が大切だと感じています。